

## 消費展を見る

K.

H.

文部省主催の消費經濟展覽會が去月十二日からお茶の水の博物館内で開かれた。二十五日までの開期が二十九日まで延期せられ、毎日午後四時閉會のはづが二十一日以後は「毎夜九時まで開場」と大きく貼紙せられ、日毎の入場人員數は一萬を前後し雨天でも千七百をかぞへる程の盛況であつた。

衣服裝身具等の消費經濟參考品出品三十六目ある中で「子供の」と云ふのは八目で、特に「子供の」と云はないでも家庭と云ふ字の中に子供を含ませたものも入れるとざつと出品の三分の一ほどであつた、殆ど是等出品の全部が聲を揃へて云て居る所は在來の服装が經濟的、衛生的兩方面から不利であると云ふ事それの改良法も種々考案發表されてあるが、それは純洋服へ」との傾向である。中には成人一枚の裾よりも大きな流れの様に感じられたのは「小兒の服まわしで造た子供服など云ふのもあつた、お父さんのズボンやお姉さんの袴から、一寸の手間と工夫で

簡単な子供服が自由に造られる、ほんの少しの工夫で、利用の方法は丁度球根の皮をむくように、それからそれへと生れるものだとと思た。農商務省の廣幅織の和服は布の經濟ばかりでなく仕立の時間をも經濟に用ひられてあるのが特點であつた。

子供の衣服がこんなに種々に考へられてゐるのに、食物の方になると「子供の爲の」といふ事はある考へてないのか發表されてなかつた。中に樺田十次郎氏の出品せられた「間食に關する圖表及見本」と榮養研究所出品の「標準食糧及學童辨當數例見本」とは私の目を引つた。前者の表の中五歳の子供の間食實例の中の一つを記すと次の様であつた。

午前十時

午後三時

みかん

コーヒー、紅茶。

鹽せんべい

もちがし。

又後者の「子供の榮養改善十則」は臺所などへ、貼て置くのによいと思って手帳にとめたのを左に記せ

ば。

- 一、食物の不合理的な節約を強ふること
- 二、無用の干涉を加へ病人扱にするること
- 三、成長に必要な栄養分の配合を考へざること
- 四、食物の好き嫌ひを矯正せざること
- 五、大人の栄養法をそのまま行ふこと
- 六、乳兒、幼兒學齡兒青年の栄養法に差別あるを知らざること
- 七、食物の新鮮度に注意せざること
- 八、間食の用ひ方を知らざること
- 九、嗜好品に特別の注意を拂はざること
- 十、不消化分の利用よろしきを得ざること

都會の子供は其他の子供に比べて體格が悪いと云はれ都會の中でも繁華な部分に住む子供達はさうでない子供達に比べて體格が劣ると云ふ、原因を尋ねれば種々あらうけれど、子供の食物とか栄養とかに就いて留意する人があまり少ないような感じがした。飲食物の消費經濟に關する参考品中「子供の」としてあげ得るものは以上の二つぎりであつた。

住宅家具等の消費經濟参考品の中では、「既成住宅の改良案」の中に縁側を一間幅にひろげガラス戸を

はめカーテンを用ひて明るい子供部屋が設計されてあつた。

衣食住のどれにも屬さないで最も直接子供に親しい玩具の廢物利用が會場の隅の方にあつたのを見つけた。大分面白ものが數多あつめられてあつた。覺えてゐるのを擧げてみると。小町絲の絲巻で造た汽車、ミルクの空き罐に模様の紙を貼り手をつけてバケツにしたもの、古葉書を繪の具でそめて作た風車、小學時代の子供位のカラーで作たデン／＼太鼓、マツチの空箱の中に配置されたお座敷。同じくマツチの空箱を重ね千代紙をはつて小さい用筆筒が出来、卵の殻に白い綿をつけたり赤い尾をつけたりして蛇鳥や金魚を造たもの等で家庭でなら造るのにも持て遊ぶのにも丁度良いものが多かつた。

特別にお貸し下された、皇太子殿下、初等科時代の御用品——短かくなつた鷲印鉛筆や、小さいお手でよく御整理遊ばされたといふ雜記帳の類は、宣傳宣傳でさわがしい氣分の充ちた場内で無言の教へを多くの人の胸に刻んだ事であつた。

館外には廉賣、即賣あり足をとめる人が多かつた。